

礎石のスキャンを行いました。

去る3月5日、御楼門の柱を建てる礎石表面の形状(凹凸)に合わせて柱底面を加工する(「ひかりつけ」と言います。)ため、礎石表面のスキャンを行いました。

スキナーがなかった頃は、柱を仮に建て、礎石と柱底面の隙間を計りながら、宮大工がノミで柱底面を研る作業を何度も繰り返していたものですが、今回の御楼門の様にとても巨大な柱を使う工事では、困難な作業になります。

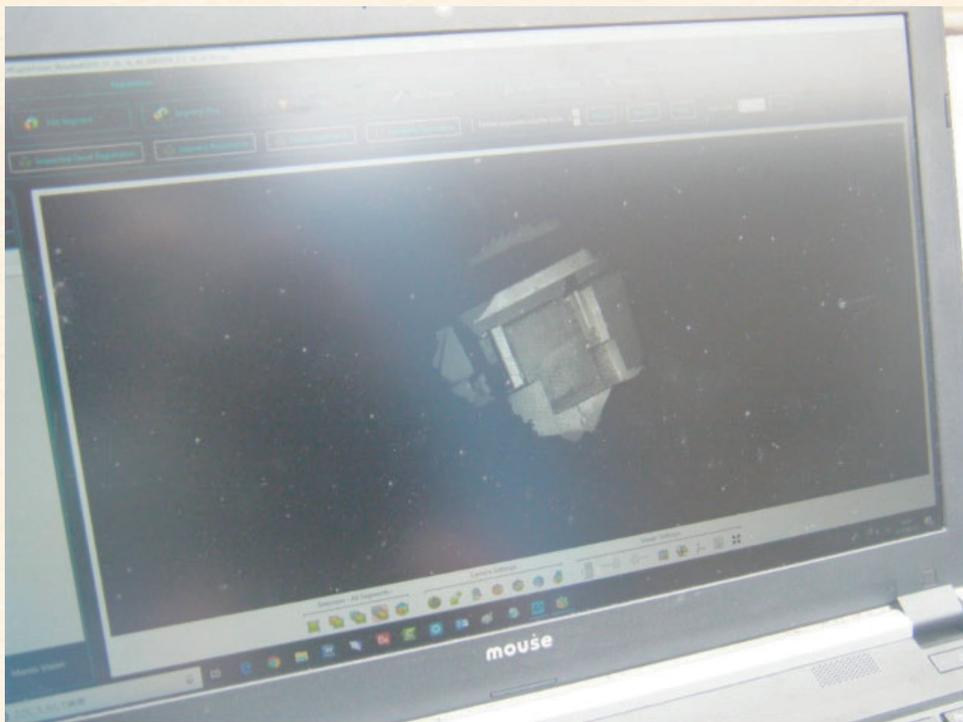
最近ではこんな便利なやり方があるんですねえ。



礎石の位置と高さを明確にするため、礎石の周りに木材(角材)の定規を据え付け、その定規に柱芯の位置と礎石の高さの印を付けます。



礎石の位置と高さをを一つずつハンドスキャナーで計測していきます。



ハンドスキャナーの計測データをパソコンで解析し、上の写真の様に3D画像にします。
この画像を基に、柱の底面を作業場で、加工していきます。
御楼門の現場で、柱を建てる時が楽しみです。

うまく柱が建ちます様に・・・

